

第 6 回令和 6 年能登半島地震吹田市支援対策本部会議概要

日 時	: 令和 6 年 9 月 2 5 日 (水) 午後 5 時 0 0 分から午後 5 時 45 分まで
場 所	: 吹田市役所 高層棟 3 階 災害対策本部会議室
出席者	: 別紙「第 6 回令和 6 年能登半島地震吹田市支援対策本部会議 出席者一覧」のとおり

議題 1 : 吹田市の支援状況 (資料 1)

議題 2 : 各部からの報告

議題 3 : 第 2 回令和 6 年能登半島地震被災地支援活動報告会 (資料 2)

議題 4 : 今後の対応 (支援対策本部の廃止等) (資料 3・4)

議題 5 : その他

資料 1 吹田市の支援状況 (最終報 : 令和 6 年 9 月 2 4 日正午現在)

資料 2 令和 6 年度防災レボリューション研修「輪島市復旧支援協定に基づく第 2 回令和 6 年能登半島地震被災地支援活動報告会」の開催について (通知)

資料 3 令和 6 年能登半島地震吹田市支援対策本部設置要領 (案)

資料 4 被災地支援の考え方 (案)

【議題 1 について】

資料 1 に基づいて事務局から説明。

【議題 2 について】

各部からの報告なし。

【議題 3 について】

資料 2 に基づいて、第 2 回令和 6 年能登半島地震被災地支援活動報告会について事務局から説明。

(本部長)

被災地支援の経験と教訓を整理したうえで、つながることが報告会の目的。

災害マネジメントコース合格者や専門家等、ぜひ聞いておきたいという人にも案内すること。

(総務部長)

危機管理室と調整して案内する。

【議題 4 について】

資料 3 に基づいて事務局から説明。

これまで、特に輪島市において、行政マネジメント支援を行ってきた。現在、豪雨被害については、災害マネジメント総括支援員を派遣し、災害対応にあたっているが、地震被害においては、復興に向けた取り組みを加速化させる動きが取られていることから、初動・応急・復旧期における支援が一定完了したとみなし、支援対策本部を閉鎖する。

引き続き、輪島市復旧支援協定や自治法に基づく中長期職員派遣などにより、自治体間連携を行っていく。

資料 4 に基づいて事務局から説明。

今回の被災地支援の経験をもとに、迅速な判断と円滑かつ適切な支援が図れるよう、認識の統一を目的に支援の考え方を整理するもの。

短期派遣と中長期派遣の間がマネジメントに関する支援の抜け漏れ期間となっている。行政マネジメント支援に関して、支援の制度化を国に要請していく。

(本部長)

受援の支援の大切さを今回の教訓として得た。災害の複合化もあり得る。それぞれのフェーズごとにどうなるか、各部でイメージしてほしい。

今回はご縁があり吹田市が支援したが、本来は近隣自治体や都道府県が支援すべきであり、国にも提言している。今回の吹田市の支援と言う特殊な事例を一般・普遍化してほしい。

輪島市が、状況をよく見て支援の終了を決めてほしい。

(危機管理監（代理）)

輪島市と綿密なコミュニケーションを取り、支援の終了時期を協議していく。今回の支援の制度化は、吹田市のみならず輪島市の思いでもある。

(本部長)

初動・応急・復旧期の途中まででやるべき使命を果たし、それ以上の成果を上げてくれた。経験値を引き継ぐために、活動報告会に様々な人が来てほしい。

【議題 5 について】

(消防長)

9月22日に能登半島方面で大雨特別警報が発表されたことに伴い、消防庁長官から大阪府の指揮支援隊及び航空省（消防ヘリ）、大阪府土砂風水害機動支援部隊の出動の求めがあり、本市からも計画に基づき1名派遣した。現地では、孤立した住宅から複数の方を救出している。

現在、大阪府土砂風水害機動支援部隊第2陣が活動している。今後の予定は未定だが、第3陣が出動することになれば、再度本市から1名派遣する計画となっている。

(危機管理監代理)

総務省、石川県、輪島市から要請を受け、9月22日から災害マネジメント総括支援員を2名派遣し、石川県とともに総括支援チームを構成して活動している。活動内容としては、災害対応を円滑に進捗できるよう市長や幹部職員への助言、省庁との連携、各業務のスキーム作りなど、本部運営を支援している。マンパワーについては、岐阜県、長野県、三重県から先遣隊が到着しており、今後は対口支援として約60名が投入され、避難所運営、罹災証明 物資・物流管理などに配置をしていく予定。孤立集落の解消について、総務省消防庁と同じチームとして活動し、引継ぎを実施している。

(本部長)

連合自治会長に向けても、自治会の役割は地域コミュニティの繋がりを絶やさないための祭りの実施であると伝えた。困っている人に直接声をかけてその背景まで把握できる社会をつくる役割を自治会に担ってもらいたい。

吹田市は、見返りを期待せず利他的な連携によるブライスレスな経験値の高まりを得ている、との認識を共有したい。

(辰谷副本部長)

今後は個別の支援を進めていきたい。

行政マネジメントの制度化についても国にしっかりと要請していくことが大切。

(春藤副本部長)

各部の職員派遣の協力に感謝する。

支援の制度のありかたに一石を投じたことは意義がある。行政マネジメントの考え方が定着していくことを期待したい。